

共創館

「図書館」「体育館」に続く3つ目の「館」として「共創館(きょうそうかん)」は生まれました。グローバル社会において、企業や行政機関は、新たなサービスや市場の創出、社会問題の解決に取り組んでいます。このような取組の中では、様々なバックグラウンドを持つ人が集い、専門分野の垣根を越えてアイデアを創り出し(共創し)、さらにそれを実行することが必要とされています。アイデアの共創を経験し、キャリアデザインを考える場として作られたのが「共創館」です。

共創館では、WASEDA-EDGE人材育成プログラムを受講するきっかけ、あるいは受講成果を実践する場となるセミナー・ワークショップ・アクティビティを「共創館プログラム」として実施しました。共創館プログラムは、大学内はもとより企業など学外の組織と連携し、起業・新規事業化・メンタリング・キャリアデザイン・業界分析などをテーマとして構成しました。

共創館プログラム開催例

- ・Beautiful Experiencesの作り方(講師:平田 智彦様(株式会社ziba tokyo代表))
- ・ビジネスモデル・ダイナミズム(講師:小山 龍介様(ブルームコンセプト代表))
- ・ビジネスアイデアを形にする起業の技術(講師:野田 拓志様(株式会社ビジネスバンクグループ))

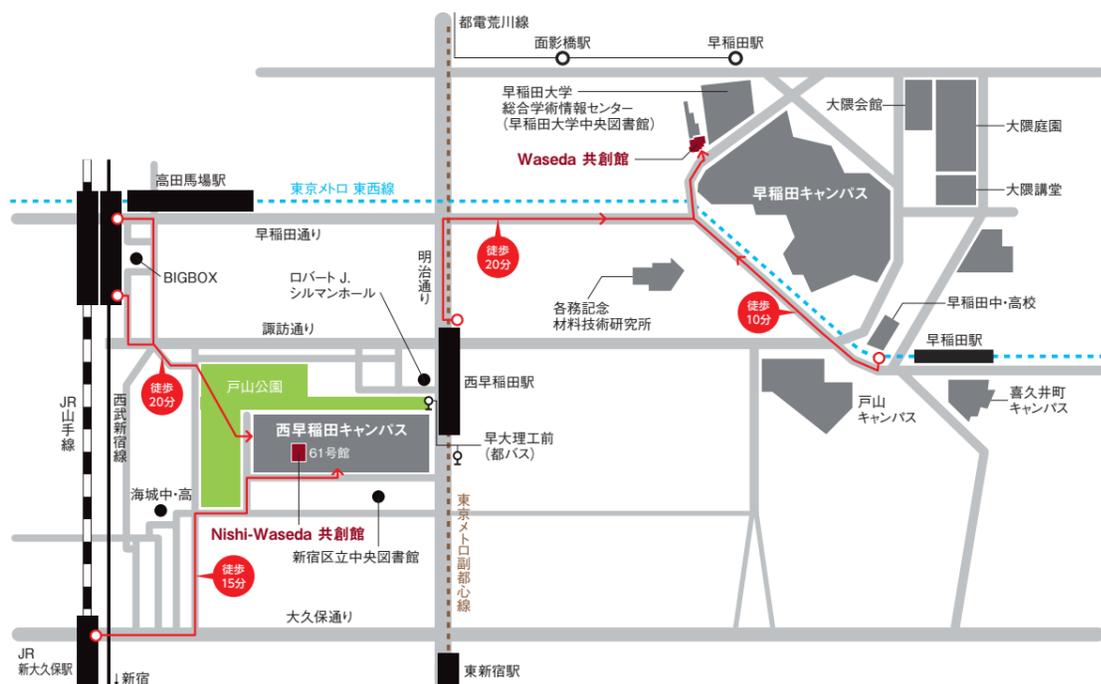


Nishi-Waseda共創館@西早稲田(理工学部)キャンパス



Waseda共創館@早稲田(本部)キャンパス

Waseda共創館・Nishi-Waseda共創館へのアクセス



お問い合わせ・連絡先



WASEDA-EDGE
人材育成プログラム

WEBSITE <http://www.waseda-edge.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/wasedaedge>
twitter https://twitter.com/waseda_edge

早稲田 エッジ

検索



お問い合わせ、お申込みはWASEDA-EDGE人材育成プログラムホームページにて承ります。なお、実施時には内容・タイトルが変更になる可能性がありますことご了承ください。本事業は、文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)の一環で実施されています。



文部科学省
グローバルアントレプレナー
育成促進事業

Ministry of Education, Culture, Sports,
Science and Technology
Enhancing Development of Global Entrepreneur Program

WEBSITE
<http://edgeprogram.jp/>



WASEDA EDGE

文部科学省 グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)
WASEDA-EDGE 人材育成プログラム ~共創館イノベーション・エコシステムの構築~

FACT SHEET
ファクトシート

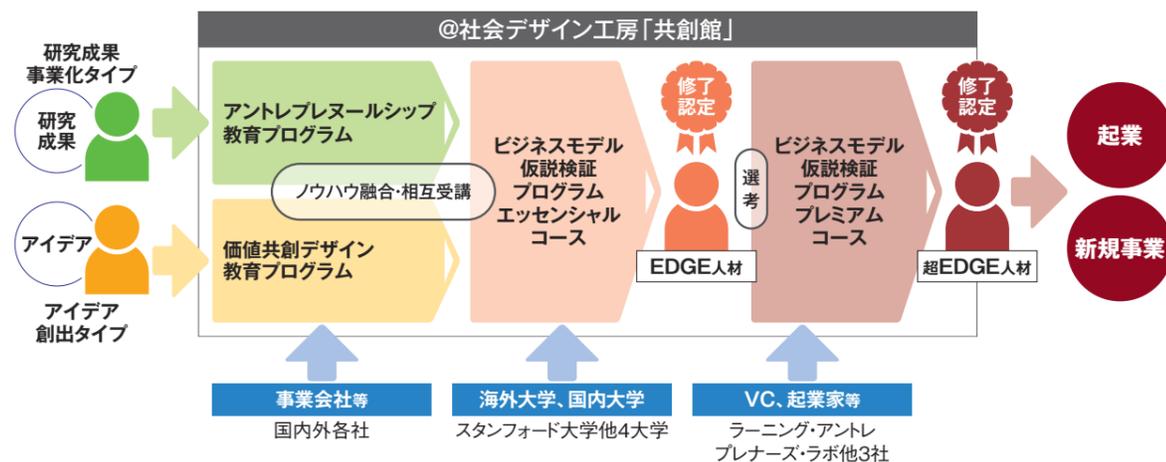
2014年度~2016年度



WASEDA-EDGE人材育成プログラムとは

WASEDA-EDGE人材育成プログラムは、文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業(通称:EDGEプログラム)の採択を受け、早稲田大学が2014年度から2016年度にかけて実施したイノベーション教育プログラムです。本プログラムは、大きく分けて以下の3つのプログラムで構成されています。

- **アントレプレヌールシップ教育プログラム** 技術シーズを有した研究成果事業化タイプの受講生が、起業家意識の醸成を図る
- **価値共創デザイン教育プログラム** アイデアや意欲を有するアイデア創出タイプの受講生が、ビジネスアイデアにまで高めるための手法(発想法、設計法)を学ぶ
- **ビジネスモデル仮説検証プログラム** 両プログラムを終了受講生が、技術シーズやビジネスアイデアを基にしたビジネスモデルの仮説を構築し、プロトタイプや顧客インタビューを通じて検証・実践していく



これらのプログラムを通じて、専門的基礎能力を持ち、鋭利な発想、体系的な方法により新たな市場を開拓し、グローバル展開可能な新規事業創出につながる能力を持つEDGE人材を育成してきました。本ファクトシートでは、WASEDA-EDGE人材育成プログラムによる3年間の取組実績をご紹介します。

プログラム受講者

受講者数延べ2千人超という、EDGEプログラム採択校の中でも最大規模の実績となりました。

また、年度を重ねて、学内外に浸透したことに伴い、受講者数が右肩上がり増加しました(2014年度は半年間の稼働)。

■年度ごとの受講者数

プログラム	2014年度	2015年度	2016年度	横計
アントレプレヌールシップ教育プログラム	126名	425名	418名	969名
価値共創デザイン教育プログラム	156名	314名	487名	957名
ビジネスモデル仮説検証プログラム	55名	106名	120名	281名
総計	337名	845名	1,025名	2,207名

※2017年2月末時点

受講者の関心・意欲に関するアンケート結果

起業関心度合、新規事業立ち上げへの意欲ともに、プログラム参加による意識の高まりが確認できました。

■「起業」についての関心

関心度合い	プログラム参加前	参加後	意識変化
非常に関心がある	17名	25名	47%増↑
関心がある	32名	34名	6%増↑
どちらともいえない	17名	10名	41%減↓
関心がない	5名	3名	40%減↓
全く関心がない	2名	1名	50%減↓

■「新規事業立ち上げ」についての意欲

意欲度合い	プログラム参加前	参加後	意識変化
積極的に関与したい	19名	34名	79%増↑
機会があれば関与したい	17名	26名	30%増↑
どちらともいえない	14名	12名	14%減↓
あまり関わりたくない	2名	1名	50%減↓
絶対に関わりたくない	1名	0名	100%減↓

※WASEDA-EDGE人材育成プログラム全受講者を対象にした追跡調査より:2016年8月実施

受講生の主な起業実績、事業展開

スターズフィア株式会社



新薬開発にかかわる臨床試験や製造販売後調査、治験のデータ管理に用いられる。EDC(Electronic Data Capture:治験で得られた臨床データを管理する)システムをクラウドサービスとして提供。ニッセイ・キャピタル等より1.3億円調達。



株式会社わたしは



AI研究を基にして、「人を笑わせる人工知能」を開発し、それを使ったチャットボットサービスを開発。NHK「着信御礼!ケータイ大喜利」出演など、テレビ等マスメディアで取り上げ多数。



早大生の起業例

株式会社skyer (スカイヤー)

■スポーツ科学部学生が卒業直後に起業



ドローンパイロットの養成事業、ドローンを活用した価値提案・啓蒙活動。主に鳥取県、秋田県で事業展開中。



株式会社テックノウス

■先進理工学研究科修士学生が在学中に起業



自宅でスポーツ観戦をしているときに日本中、世界中のスポーツファンと声でつながり、一緒に観戦・応援ができるスポーツ専用SNS「FanLive」の開発と事業化。



EAGLYS, Inc

■基幹理工学研究科修士学生が在学中に起業



人工知能(AI)技術やセキュリティ技術の研究開発・導入支援、およびそれらを用いたアプリケーション開発。



若木国際医療コンサルティング株式会社

■先進理工学研究科博士課程学生が在学中に起業

中国の医療現状を改善しながら中国人の健康意識を向上させ、日本の先進的な医療技術や健康理念を中国に提供。

早大受講生の受賞実績

University Venture Grand Prix (UVGP) 2015 大賞など多数

ビジネスモデル仮説検証プログラム受講者:藤河 辰矢さん(商学部)



EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION (エッジコンペ) 2015 GOLD AWARD受賞

ビジネスモデル仮説検証プログラム、アントレプレヌールシップ教育プログラム受講者:下島 洋さん(先進理工学研究科)をリーダーとする東工大生、東大生とのチーム



日本経済新聞、金融庁主催:FIN/SUMでのパートナー企業賞(明治安田生命保険)受賞

価値共創デザインプログラム受講者:小口 雄大さん、樋口 玲央さん、山本 健太さん(商学部井上ゼミ)



IoTハッカソン

ビジネスモデル仮説検証プログラム、アントレプレヌールシップ教育プログラム受講者:堀 克樹さん(基幹理工学研究科)、大島 翼さん(先進理工学研究科)他によるチーム



受講生の外部資金獲得例(JST-START関連)

■2015年度採択者(ロボティクス分野):2件

動作軌道の直接教示が容易で柔表面構造を有する安全なロボットアームの開発
早稲田大学 助教 シュミッツ・アレクサンダー チーム
⇒2016年度には、START事業プロジェクト支援型にも採択

口腔ケア補助ロボットの開発
早稲田大学 大学院修士課程 柴田 源 チーム

■2016年度採択者(IoT分野):2件

羽ばたき飛行制御技術に応用した自律型情報収集端末の開発
早稲田大学 大学院修士課程 依田 大輝 チーム

皮膚健康モニタリング超薄膜
早稲田大学 大学院博士課程 片岡 孝介 チーム

※所属、肩書きなどは、すべて当時のもの。